　会議要旨書

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 令和３年度第２回三鷹市市民体育施設利用者懇談会 |
| 日時 | 令和４年３月22日（火曜日）　18：00～19：30 |
| 場所 | 三鷹市教育センター２階　第二中研修室 |
| 出席委員 | 高橋伸、丸岡近賀子、中野石太郎、苔口祐子、國本有紀子、水口松美、村上恭之、竹内珠代、岩﨑好高、小林大祐（名簿順、敬称略） |
| 欠席委員 | 山岸みゆき（敬称略） |
| 出席説明員 | スポーツと文化部長　大朝摂子、スポーツと文化部調整担当部長　髙松真也  スポーツ推進課長　平山寛、スポーツ推進課主査　西澤俊、  スポーツ推進課主事　木挽俊介 |
| 会議の公開・  非公開 | 公開 |
| 傍聴人数 | ０人 |
| **１　座長あいさつ**  ・健康体力相談事業を含めたスポーツ教室、ワンコイン事業等について意見を伺いたい。  　・現在はコロナ禍ではあるが、今後十分な活動ができるように準備していきたい。  **２　事務局説明**   1. **三鷹市市民体育施設の管理運営について**   以下について説明  【平山スポーツ推進課長】  ア　スポーツと文化財団の指定管理事業  ・種目別個人開放事業  定期的にバスケットボール、バドミントン、卓球等を実施  ・障がい者のスポーツ教室事業  サッカー教室、ゆるスポーツ体験教室等を開催  ・スポーツ教室事業  セントラルスポーツに委託：定期教室  第１期～第４期の実施回数  １教室あたり　６回～11回実施  イ　スポーツ教室・ワンコイン（500円）事業について  ・ワンコイン（500円）教室を実施  パースナルスイム教室（水泳関係事業）  ・その他  開館状況、利用者数については資料参照  ・チラシ  対象とする利用者をマークや色分けにより判別できるように曜日、時間帯を分けて各事業  実施  ・利用者懇談会から要望された事業の実施  子どもが教室参加している間に親が運動できるワンコインプログラムを新設  スポーツ実施率が低い子育て世代のスポーツ実施率を上げる取り組み  手軽に利用できる金額を設定  長期的には、体験後も違う場所で運動の継続を希望  次の段階として、今後運動する機会をいかにして設けるかがポイント  ウ　スポーツ教室アンケート結果  ・運動習慣に繋がる感想  体力がついた  疲れが軽減された  ストレス発散ができた  リフレッシュできた  体を動かせて楽しさを感じた  ・目標が達成できなかった方の原因  教室だけの運動で家では実施が難しい  週に１回から２回では物足りない  ・今後参加してみたい教室、興味のあるスポーツについての意見は、教室事業の改善のヒント  になった。  エ　健康体力相談事業のチラシ  ・運動プログラムの提供  ＳＵＢＡＲＵ総合スポーツセンター トレーニング室専属の健康運動指導士等の有資格ス  ポーツトレーナーが、その人に合った運動プログラムを提供することが一番の大きな特徴で  ある。  　　プログラムは、トレーニング室に来館しなくとも、家でも継続できる点ももうひとつのポ  イントである。  ・健康体力相談事業  　　自分の体力レベルを知りたい方、どのような運動をしたら良いかわからない方等に対象項  目を記載している。財団の事業として拡充していきたい。  　利用率については、コロナ禍以外では、約８割強であり、非常にニーズの高い事業である。  ・参加者の声  　　「体力をつけたい」「健康維持」「脚力強化」等、体力に関わる目的が大半を占めている、ま  た、「筋力アップ」「美容」の目的で受講しているかたもいる。  オ　スポーツを通した健康都市づくりの基本的な考え方  ・令和３年度に策定。  ①科学的根拠に基づくスポーツを通した健康増進事業の展開  ②事業評価点検による事業ターゲット性別年齢等の明確化  ③運動のきっかけ作りから運動習慣の定着を見据えた事業転換  「タッタカくん！ウオーク＆ラン」アプリを活用したウオーキング、ランニングの普及  定期的なスポーツ教室を終えた方が継続的に体育協会や地域スポーツクラブ等に参加で  きる工夫を図っていきたい。  スポーツ実施率を向上させスポーツを通して市民の健康増進を図っていきたい。  **(2) 各委員からの意見や感想**  【高橋座長】  委員会で提案されたことを活かすプログラムを進めていると感じる。意見を聞きたい。  【水口委員】  アンケートの詳細及び、「タッタカくん！ウオーク＆ラン」の認知度について尋ねたい。  【平山スポーツ推進課長】  スポーツ教室の受講生募集については、三鷹市・武蔵野市エリアの新聞折込み配布によりご存知の方が多い。  スポーツインフォメーションについては、市の関連施設に配架している。さらに周知するために広報みたか及びホームページを活用してＰＲする。  アンケートについては、意見の分析をするため、年齢・性別の質問が必要である。  「タッタカくん！ウオーク＆ラン」のイベント開催については、バーチャル駅伝は88人、スタンプラリーは本日時点で220人が参加しており、またアプリ登録者数は450人いる。さらにＰＲし、運動習慣の定着に活用してほしい。  【高橋座長】  運動の実施率を上げるためには、興味を持つようなアピールをすることが課題となる。  【竹内委員】  ターゲットを明確化するのが良い。興味がない人には具体的なアクションが必要と考える。ランニング・ウオーキングが継続できるように、達成した際のポイントを何かに交換できるような仕掛けや工夫が必要だ。仲間づくりやコミュニティが生まれ、三鷹市内の色々な地域に出発地点や目的地を設定し、気軽に参加できる工夫が重要である。  ワンコイン教室については、枠を広げると参加の機会が増えて良い。  【高橋座長】  仲間づくりのためにオンラインと対面の各プログラムを一緒に実施することや、人が集まる機会に他のプログラムのインフォーメーションを案内するのも良い。子育て世代に運動しやすい機会を検討してほしい。  【丸岡委員】  プールの更衣室において、入れ替わりの際に時間が重なり混み合うため改善の必要がある。  団体利用と個人利用の特に個人利用の枠の算定方法はどのようになっているか。また、施設の開館状況、及び利用状況についても尋ねたい。  【小林委員】  メインアリーナの開館日数は、274日である。団体登録のある利用状況については、１日をコマ単位で換算した場合、2,584コマで、利用件数は1,772コマである。利用率は68.6％である。プールの利用件数は、13,248件である。利用枠については、団体利用は3,700コマ、個人利用は、9,500コマである。  【高橋座長】  更衣室が混み合う件については、検討してほしい。  【村上委員】  運動の実施率を上げるためには、興味を持つようなアピールをすることが課題となる。リモートワーク等による運動不足解消のため、仕事が終わる午後６時以降に自宅でトレーニングしたいというニーズに応えて、スポーツ教室をオンラインで展開するのはいかがか。ピラティスやフィットネス系等を検討してほしい。  「タッタカくん！ウオーク＆ラン」のアプリについて、貯めたポイントを市の地域通貨に活用すること等を今後促進していく。限定的な用途のみならず、情報発信やポイントを貯めたり、ゲーミフィケーションのような仕組みをアプリに持たせ、トレーニングを通して活性化していく流れを作る入口となればいい。  視点を変え、スポーツのスキルを持った人が市民に教えるという「スキルシェア事業」を検討してほしい。結果的に、地域の市民同士の交流となる新しい形が生まれるのではないか。  仕事や授業をオンラインで行っている人が多い中で、オンラインで行いやすいヨガ、ピラティス、フィットネス、ラジオ体操等のプログラムを取り入れてほしい。  【國本委員】  スポーツ教室について。人気のあるものは抽選となるが、定員に満たない教室がある。定員を増やす等、調整が必要と考える。特に水泳教室の小学生以下の枠を増やしてほしい。  「タッタカくん！ウオーク＆ラン」のアプリについて、ポイントを貯めて他のプログラムで使えるチケットのようなものだったら参加しやすいのではないか。  何かスポーツを始めたいときに、スクール等に所属しなくとも初心者向けのプログラムがあれば、そのスポーツを始めるきっかけとなる。  【高橋座長】  スポーツ教室の定員の問題については、対応する必要がある。初心者向けスポーツについては、体育協会の加盟団体においても実施しているので、情報公開をさらにすると良い。  【小林委員】  スポーツ教室の人気・不人気のバランスについて、意見をいただいた。スポーツ事業者に委託して上限を設けた範囲内で実施するようにしている。不人気の教室については少人数ながらも継続的に受講したい方もいるため、なくすことはできない。人気のある教室を増やしたいジレンマもあるがバランスを考慮して配分を実施している。  健康体力相談事業については、ワクチン接種の会場となっているＳＵＢＡＲＵ総合スポーツセンターに初めて訪れた方が、実施している教室等を見た後に受講するケースが急に増えた。周知を地道にする必要ある。  【苔口委員】  子どもが教室に参加している間に親が参加できる事業を実施していただき感謝している。乳幼児を一時的に預かるという情報をＰＲの中に取り入れると情報発信が行き届くと考える。  【大朝スポーツと文化部長】  乳幼児の一時預かりについて、スポーツ教室のチラシに電話番号を載せることを考えている。  【岩﨑委員】  委員の皆様の意見について早速実行していきたい。障がい者スポーツもオリンピック・パラリンピックのレガシーを含め、活用していきたい。団体利用とスポーツ教室利用の方とのバランスを考えなければならない。スポーツ教室のプールについては、枠を増やしていきたいがコロナ禍ため定員を減らし、密にならないように配慮していることを理解してほしい。  【小林委員】  スポーツ教室のアンケートについて、スタッフの対応は良い評価を得ている。第1期はコロナ禍のため実施できなかった事業について、第２期、第３期ではバスケットボールやバレーボール、初心者テニス教室等を考えている。また、オンライン教室等の実施も考えていきたい。  【丸岡委員】  プールに設置している時計をスタートとターンの際に見える位置に置いてほしい。  【高橋座長】  捻挫やけがの応急処置、熱中症の際に使用する氷を事務所で用意して欲しい。公共施設でアイスマシンを設置しているところもある。  各施設において、故障や壊れて老朽している箇所の情報を提供してほしい。    以上 | |